

保健師としての考え方、姿勢

コード	カテゴリ	具体的な政策手法	政策手法の分類
7	60歳から80歳の20年間の生活について前々から考えていた。	住民の生活のあり方について考えている	地域がどうあったら良いかという理想的な姿を考え、現状を分析する
35	介護予防一生きがい、体力、気力を維持するには		
45	T町には施設もサービスもない	自分の町の高齢者対策への問題を分析していた	理想的な姿からみた町の実態を分析する
151	T町は考えるのが遅かった		
20	保健師活動の基本は住民から教えられる	保健師は活動から住民の声を聞くことができる	日常の保健師活動から住民の声を把握するということ考えを持っている
139	保健師は住民の声や肌で感じていることを感じることができる		
24	私（保健師活動）の基本的な考え		
33	自主グループなど、住民は自分たちの地区でそれぞれに行っていた	必要なのは住民が教えてくれるし、住民から学ぶ	住民の声から地域に必要な活動を把握するということ考え持っている
41	住民の自主的活動から学んだ		
21	必要なのは住民が言うてくる		
143	住民の要望がない事業の実施や行政の押し付けではだめ		
34	住民たちが行っている活動に、行政でちよつとカッコをつける形で行う		
15	それである一部の地区でお茶のみの会が始まった？		
23	事業などを始めるときは住民の実態から		
140	事業をやるときに保健師は住民の状況を判断してやれる		
22	住民がやっていることを行政に生かすという姿勢でやっている	行政は、住民の活動や住民の実態を生かした活動をするという考えを持っている	住民が自主性をもって取り組み、それを事業化するという姿勢がある
72	行政から強制的に実施させるものではない		
78	内容や流れについてはそれぞれの行政区で自主的に取り組むとことが基本的な考え		
81	事業化しないと定着しない。	住民が自主的に取り組む事業にする	

資料6 事例B:「野の花会(痴呆性高齢者を抱える家族の会)」について
地域住民の実態を把握し、対策の必要性を感じ、対策案を思案する時期

コード	カテゴリ 新興住宅地域の住民の生活の実態を把握し ていた	具体的な政策手法 住民の生活の実態を把握している	政策手法の分類 住民の現状から健康問題を把握し、対策を思 案する
3	新しい団地の住民は転入者のため土地感がなく人間関係も薄い		
9	新しい団地では近所の人のことが分らない		
4	住民は相談場所も分らず不安を抱えていた	新興住宅地域の要介護者の問題を把握した	住民の実態から健康問題を見いだす
5	高齢者が痴呆や寝たきり者を介護している人を把握した		
8	介護者が近所同士なお互いを知らない		
10	自分だけが大変という思いで介護していた人がいた		
17	痴呆疾患への対応の困難さと新興住宅による家族関係の複雑さがある		
18	各種サービスの提供だけでは問題解決にならない		
2	痴呆高齢者を抱えている人からの相談を受けた	新興住宅地域の痴呆や寝たきりを介護してい る人の相談を受けていた	住民の抱える問題を受け止め、新たな対 策の必要性を判断する
6	痴呆や寝たきりの人の存在を知り、訪問した		
7	寝たきり高齢者に関する相談が続いた		
13	3丁目で痴呆のことで悩んでいる人から相談を受け、1丁目でも同様の 相談を受けた		
12	プライバシーのあることは難しい	介護者の問題を把握し、現状の対応では解決 しないと判断した	
14	介護している人が戸惑っていたが、専門的な知識や情報もまだ乏しい時 期だった		
59	(家族が) 介護はやるのが当たり前という時代だった		
15	(保健師は) 介護者の気持ちなどをどこまで分ってあげられるかと戸惑った		
16	通り一遍の指導やアドバイスでは解決しない		
19	保健師として介護者から話を聞くだけでは分りえない部分がある		
20	痴呆の相談があった時に住民同士をつなげてあげたらと最初に思った 実際には介護している人どうしでなければ介護している人の気持ちは共感 できない 訪問で個別に生活の実態や今後どうしたいかということを訪問で把握し たのが一番最初	介護者同士が共感しあえるように、個と個をつ なげるという案を考えた	健康問題の対策を考 えながら対応している 性を判断する
46			
47	介護者の会などをみんな(当事者は)求めていたと思う	介護者の会 の会 の会	住民の声から、考えている案の妥当性を 検討する
49	みんなの思い(介護者の会を)をずっと前から感じていた	介護者の思いを把握しながら、介護者の会 の会 の会	
165	介護は地域のみんななでやりたいというのがメンバーの一番の思いだった		

対策案を事業化して、事業が定着する時期
試行的な対策案を実施し、事業化する

コード	カテゴリ	具体的な政策手法	政策手法の分類
22	プライバシーを保護しながら、住民と住民（個と個）をつないだ	プライバシーを保護しながら介護者を会わせを実施してみる	試行的な案、評価する
23	最初は会場を自宅にして、どちらかの人の家に行った		
31	場を設定した後も住民同士が会って話し合いをしている	個と個を会わせただけによって、交流が始まり、精神的安定が図れた	住民の反応から新たな対策の妥当性を検討する
33	介護者同士、ちょっとした悩みや介護方法を聞き合えて精神的安定が図られた		
34	最初は、手をつなげてあげられて良かったという思いだった。	保健師として個と個をつないで良かったと評価した	
56	最初、癒しの場がいいと考えた		

コード	カテゴリ	具体的な政策手法	政策手法の分類
38	痴呆の相談者が3人目になった	相談者が増え、会を紹介した	最初は、行政主体で事業化し、会を企画、運営する
42	介護している人は5人ぐらい把握していた		
45	訪問で、介護者にこの集まりのことを知らせた	社会資源として作り上げていく	
130	一つの社会資源として作り上げていくと大きな財産になる		
39	話し合いの場を互いの家に設けることで負担になつてはいけなさと考えた	メンバーが負担にならないように会場を借りた	会の目的が達成できる運営方法を考え、実施する
41	3人ぐらい集まるとお茶を出したり、菓子をもって訪れたり互いに負担になる		・メンバーの保護
43	この機会に会場を借りて話し合いができるというのが一番最初の発端		・連絡方法
44	3人集まって会場を借りた		・会の開催回数
53	本音で語れるように会の約束事をつくった	本音が語れるように会のルールを作った	・参加費
54	ここでの話が「お茶飲み」で話されてはいけない	・メンバーの負担が過重にならない	
69	プライバシーがあるので名簿は作るべきではないと考えた	・メンバーの保護	
70	この会に来てメンバー同士、住所交換や連絡がとれたらいいなと考えた	・会に参加することによって連絡方法を自ら作っていく	

71 みんなの反応を聞いて月1回くらい開催する

・会の開催回数

83 最初は参加費（自己負担金）をとったが今は自分たちが自由に決めている。

・参加費

67 最初は行政が応援した

最初、行政が連絡、予算、場所、プログラム等を設定をした

最初は、行政側が主体的に会を運営する

68 最初は行政で、会場を借りたり、メンバーへの連絡、講師謝礼を行った
73 最初は、講師を呼ぶこと、会場借りることなどの事務的なことは行政でやった

・会場の準備

・連絡

・予算

72 互いの話を聞くだけでなく講師の先生にも来てもらって勉強会の開催も考えた

64 野の花会を支えてくれるボランティアが必要と考えた

会を支えるボランティアの必要性を判断し、ボランティアを育成した

会を支えるボランティアの必要性を判断し、関係機関に働きかける

65 町内会の会長や民生委員に会議の時に会の必要性を投げかけ、働きかけた

66 必要な時にはボランティアでお手伝いしていくような下地を作った

154 住民や介護者が心を開いてくれるかよって、できるかどうかにかかわる。

会を作り上げていくためには信頼関係を築くことが重要
住民との信頼関係が重要であり、活動を通して、信頼関係を築き、深める
関わりの中で信頼関係を築き、深めながら、会を作り上げていく

152 この会は、保健師と関係ができないと進めない

・訪問によって

162 会をつくるには、いかに保健師との信頼関係をつくるかだと考える

・困っているときに頻度を多く関わる

151 訪問でいかに住民と信頼関係を築くかが大切

訪問によって住民と信頼関係を築く

153 信頼関係を築くには住民が困った時に頻度を多く、チャンスを逃さずに関わる必要がある

住民が困ったときに頻度を多く関わることによって信頼関係を築く

156 手紙だけではなくその人となつながらいけない

・チャンスを逃さない

36 介護者の「排世の間待っている」と言葉に込められている思いがあり、介護者同士だと互いに共感し合い、認め合い、会がはげみになっていった
参加者の反応から、参加者にとっての会の状態をアセスメントし、会の意識を評価する

37 介護者同士だと、一言の重みや大変さをすごく共感できる

55 本音を語るためにみんな来ていた

60 介護者同士お互いに認めることでみんなの励みになった

自主活動に転換する

コード	カテゴリ	具体的な政策手法	政策手法の分類
75	自主活動になってほしいという思いがあった	自主活動に転換する時期を判断する	自主的な活動へ転換する時期を判断する
77	手を抜いていきたいという思いがあった		
58	最初は自分たちが癒されないとだめ	まずは自分たちが癒される時期が必要だった	自主活動に転換する時期を見きわめる
57	自主グループにはいるんな時期がある	自主グループになるまでに段階がある	
84	自主的になるまでに段階（時期）がある		
85	一番最初は癒される時期（充分、癒してあげないとだめ）		
86	ずっと癒しつばなしではダメ		
124	会が定着してきて、みんながきちんとして癒され、落ち着いてきた時期（2～3年目）にできなくてはいけないことを伝えた	自主活動になるべき時期を判断した	
164	その会ができたことには時代背景がある（介護保険が始まって介護について認められるようになってきたから）	実施時期には社会背景が影響する	
80	最初は、役場の方で応援するからとメンバーに伝えた	自主活動にすることを説明した	自主活動に転換するために支援する
110	みんな頑張っているし、行政は他にもやることあるから自分たちでやっていくように話した	自分たちでやっていくこと	・自分たちでやっていくこと
111	止めるなら止めるが続けるならお手伝いでできると話した	続けるかどうかは自分たちが決める	・続けるかどうかは自分たちが決める
112	みんな（メンバー）に、できることと、できないことをきちんと伝えた	役場が手伝いすること	・役場が手伝いすること
113	手伝えることはこれだけで、みんながもうやっているんだよということも話した	できることとできないこと	・会の運営のためにメンバーがやることを明示する
94	会の運営に口出しはしなかった	自主活動になるために支援した	自主活動として運営していくために支援する
122	住民の思いと自分の思いが違う時は自分がでしゃばってはいけない	会の運営には口出ししない	・会の運営には口出ししない
123	引いたり抑えたりすることが必要	メンバーのやり方に任せた	・保健師の悪いと違っても口出しせず、メンバーのやり方に任せる
114	曜日もみんながやりたいようにやっていたというのを伝えた	保健師の悪いと違っても口出ししない	・アドバイスはするが、引いたり抑えたりする
115	会長など決めてやったらいいと思っていたがメンバーに任せたい手を取って抜いていくようにだんだんとやっ	アドバイスはするが、引いたり抑えたりする	
76	とやっ		
78	つぶれないように、ひとつづつ手を抜いていった	少しずつ手を抜いていった	

- 79 最初からできないからだんだんと手を抜いていった
- 119 リーダー的な人には事前に根回しをしたりサポートをした
- 120 リーダー的な人を見つけたり育てたりするのも保健師だと思える
- 118 年度計画への研修のアドバイスをした
- 117 年度はじめと年度末は欠かさずに会に参加した
- 88 新しい人は私（保健師）が訪問から会につなげた
- 87 介護者の癒しが終わったあたり（自信をもってがんばられるようになったあたり）に新しい人を会に入れる
- 91 訪問の時にその会を資源として紹介する
- 92 新しい人が来ると先輩の人は新しい人を支えてあげられる立場になる
- 93 新しい人は保健師がつなぐ
- ・リーダー的に人にはサポートをして育てた
- ・リーダー的な人にはサポートをしてリーダーシップの力を育てる
- ・年間計画についてはアドバイスした
- ・保健師は年度はじめと年度末には参加し、助言する
- ・この会を資源として、新しい会員を紹介し、会
- ・新入会員を紹介し、支える立場になること
- ・この会を資源として、新しい会員を紹介し、会
- ・新入会員を紹介し、支える立場になること
- ・この会を資源として、新しい会員を紹介し、会
- ・新入会員を紹介し、支える立場になること

事業が発展・拡大する時期
メンバーが自主的な力を伸ばし、会が発展する

コード	カテゴリ	具体的な政策手法	政策手法の分類
74	メンバーに自主的な姿勢が現れてきた	会の運営をメンバーが行うことによる自主的活動の変化を評価していく	メンバーの力をアセスメントし、その力を支援していく
81	だんだんに自分たちがやりたいことを言うようになってきた	・会の運営: プログラム、参加の仕方	
82	プログラムは自分たちが決めている	・プログラムの参加の仕方	
102	自分たちで会の紹介や参加の仕方も考えた	・会員同士の連携: 密接度	
116	役割は自分たちで決め、できるかなと言いながらみんな引き受けてやっている		
99	被介護者が亡くなった後の介護者のフォローもみんながした	要介護者の死亡後のフォローもし、介護者はその後にも会に参加した	
100	被介護者を亡くした介護者も会をやめないで、手伝いをした		
96	介護用品の日常の工夫を提供しあう場にもなってきた	会は、情報交換の場になり、安心して話せる場になった	会が一一人のメンバーにとって、どのような意味を持っているか、意義あるものになっているか、評価する
98	どんなことも、みんなが聞いてくれるから安心して話せた		
97	身近で画期的なことが行われているから、行かないと損という感じがあった	メンバーにとって意義のある会になった	
158	体験を語ることで即他の人がいかせる内容だった		
159	その会につながっていれば楽しいと思う		
136	メンバーは、みんなの役に立てたらという思いをもっていることが分っていた	メンバーの意欲は外にも向いていることを把握した	メンバーの意欲と力を把握し、社会活動を行っていく会として発展させていくために支援する
137	メンバーの力をここでとどめてはいけない、いろいろなところで発展させていければと思った		・やる気のある人への支援
138	何かやってもいいと思っている人はボンと押してくれる人がいれば動ける	メンバーの力が他の人への支援に発展するために支援した	・力を必要としている人の紹介
147	立派なグループになったら終わりでなく、力を必要としている人が一杯いることをわかってもらう		
148	メンバーを頼りにしていただくことをメンバー自身に伝える		
106	保健所の先輩保健師に会の方向性についてアドバイスをもらっていた	先輩保健師の支援を得ることによって、会の発展につながった	他のスタッフや関係職種によるメンバーへの支援を得る
107	保健所の先輩保健師に会に講師としてきてもらった		・会の方向性への助言
108	保健所の先輩保健師にメンバーが自信をもつような声かけをしてもらった (? やってきたことを評価してあげる)		・メンバーへの評価 (力があること)

109	自分（保健師）だけの力ではできないし逆にのめりこんでしまう		
132	保健師には困っている等の情報が入る ある会に参加する人がいなくて困っていることをメンバーに伝え 133 た	自主活動後も情報提供は継続し、どう活用するかはメンバーに任せ 情報提供を継続し、判断はメンバーがす る	
131	私（保健師）がやれたのは、いきいきサロンの内容等の情報提供だった		
134	課の催し物の情報や活動へのアドバイスをを行った		
135	情報提供をして、どう活動するかは本人たちに決めてもらった		
103	要介護者がデイサービスに行っている間にボランティアに行くようなボランティア精神のある人もいる	自分が癒されると自分の力をボランティア活動に広げていく人がいた	会の発展状況を評価する 会の発展過程を評価し、さらに支援していく
104	自分の力が誰かの役に立てばと、ボランティア活動に進んでいく		・活動の広がり
105	自分が癒されたら、次に誰かの役に立てるというステップを踏んでいく		
140	世界が広がっているいろいろな人がつながるから活動が広がる	活動が広がり、社会活動になっていた	
141	互いに、癒されたり、励まされたりするといくらでも発展していける		
142	この人（要介護者）がいなかったら世界は広がらなかつたと言 う		
125	他の会にもボランティアとして参加して力になっている		
143	様々な会に参加したりシンポジストとして呼ばれたりしている		
128	情報は住民の方が詳しく、他課の動きもわかる	行政的なサービスにも自ら参加し、支援している	
129	情報は住民の方が詳しいから、課を超えた行事にも参加している		
95	自分たちからいろいろな場で情報を聞いてきて、情報交換し合うようになった	自分たちで情報収集するために活動するようになった	・情報収集のための活動
89	この会が介護のプロ集団になってきている	会の運営はメンバーに任せられるようになった	・会の運営
90	会に任せておけば保健師以上のアドバイスもしてくれる		
126	区長等から推薦をうけ表彰された	他からの評価も受け、認められるグループになった	・他者からの評価
127	地域で認められ、理想的な自主グループに育っている		

他の地区での事業化を目標にする

コード	カテゴリ	具体的な政策手法	政策手法の分類
50 新興住宅地だからできた	全く知らないところに転入してきているから自分の過去を引きずらずに	この事業は、新興住宅地域だから、できたかもし他の地域での事業化の可能性を分析する	他の地区での事業化の可能性を検討し、次の目標を立てる
51 済む	52 他の地区では今までの人間関係があるので、できなかったかもしれない	住民がつかない	
160 農村地域でもできるかもしれないと思っ	163 農村地域でもできるかもしれないと思っ	住民がつかない	
161 現在、ある地域のお嫁さん同士が集まってきているから、会場を農村地	163 会をもみじヶ丘だけにとどまらず大和町全体にしたいという思いがある	実施可能性のある地区を把握している	実施可能性のある地区を判断し、次の目標を立てる
163 会をもみじヶ丘だけにとどまらず大和町全体にしたいという思いがある		地域全体の活動に広げようという目的を持っている	

保健師としての考え方、姿勢

<p>61 自分がやるのが当たり前と背負い込んでおかないか</p>	<p>介護負担を家族が追うのではなく地域でみてあげたいと考えた</p>	<p>その地区がどうあったらよいか理想的な姿を考えている どうあったらよいかという理想的な姿を考え、現状を分析する</p>
<p>62 みんなで負担を分け合って地域でみてあげたい</p>	<p>個人でケア全てをやるのではなく地域の中で認められてやってあげたいと考えた</p>	
<p>63 地域で生活している住民自身の問題はいろんなところでの連携や協力が大切</p>	<p>145 地域の人たちでいい方向に進めてもらいたいというのが一番</p>	
<p>146 役割を住民に担ってもらおうようにすること</p>	<p>150 地域のみんながやるという方向に持っていたらと思っていた</p>	
<p>150 役割を住民に担ってもらおうようにすること</p>		
<p>166 地域のみんながやるという方向に持っていたらと思っていた</p>		
<p>48 当時、そういう（介護者の会）大和町にはなかった</p>	<p>町での介護者の会を必要性を感じていた</p>	<p>理想的な姿からみた地区の実態を分析する</p>
<p>11 行政の立場だから知ることができる</p>	<p>30 行政や保健師が全部を抱えられることではない</p>	<p>行政の立場だから知ることができるが、行政や保健師が全部抱えられることではない</p>
<p>30 行政や保健師が全部を抱えられることではない</p>	<p>32 保健師はそんなに訪問には行けない</p>	
<p>32 保健師はそんなに訪問には行けない</p>	<p>101 行政でやる場合には対象外になってしまうが、自主的な会では自分たち決めていい</p>	
<p>101 行政でやる場合には対象外になってしまうが、自主的な会では自分たち決めていい</p>		
<p>24 介護者が本当に聞いて欲しいことを私（保健師）は聞いていなかったのではないか</p>	<p>27 自分（保健師）ができること、住民ができることは違う</p>	<p>保健師ができることと住民ができることは違う 住民ができることを判断し、それは住民が担うという考えを持っている</p>
<p>27 自分（保健師）ができること、住民ができることは違う</p>	<p>28 自分がやれないことは逆に住民に担っていた方がいい</p>	
<p>28 自分がやれないことは逆に住民に担っていた方がいい</p>	<p>29 いい介護ができるためには住民を巻き込むことが必要</p>	
<p>29 いい介護ができるためには住民を巻き込むことが必要</p>		
<p>149 いかにか住民の力を引き出し、行政運営につなげていくかが必要</p>	<p>住民の力を引き出すための行政運営について考えていた</p>	<p>住民の力を引き出す行政運営についての考えを持っている</p>

25	自分が思っていた以上に住民に力があつた	住民の力はすばらしいことを知った	住民の力に魅力を感じ、その住民と保健婦として関わることに喜びを感じている
26	住民の力はすばらしい、自分の存在は小さいと感じた	住民の力を支援する関係を保健婦は作りやすい	住民の力を支援する関係を保健婦は作りやすい
139	やる気のある人を支援する関係を保健婦は作りやすい		
121	住民の力を感じなければならぬ		
35	介護について、住民から多くを教えてもらった。	介護について住民から学んだ	活動をとおして、一人の保健婦として学び、喜びを感じている
144	学ばせてもらうことがいっぱいあり話を聞くだけでもうれしい	住民からの学びや、出会った人との関係がうれしく、おもしろい	
157	他の地区でも何があっても来てくれる人がいるを見つけた、そういう人間関係がおもしろい		

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文（記事）タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
工藤 啓、佐々木裕子、右田周平、荒井由美子	トピックス 健康日本21市町村地方計画策定の展望と課題	公衆衛生	第65巻	596-600	2001
工藤 啓	事業の体系化こそ大事 優先順位と指標で住民は動く 進行管理は保健所の仕事	公衆衛生情報	第31巻 第8号	14-18	2001
工藤 啓	行政評価、情報公開、説明責任が行政サービスのキーポイント	Monthly 保健センター	第462号 7月号	6-7	2001

20011024

以降 P156-P169までは雑誌/図書等に掲載された論文となりますので
P155「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください

研究成果の発表

- 1) 佐々木裕子、工藤 啓、片倉成子、阿部淳子. 『市町村における健康日本21地方計画策定の現状について—宮城県内70市町村の調査から—』第37回宮城県公衆衛生学会学術総会 2001年6月29日 仙台
- 2) 佐々木裕子、工藤 啓. 『市町村健康日本21地方計画策定の課題 ～特に保健所の後方支援機能に関連して～』第50東北公衆衛生学会 2001年7月30日 盛岡
- 3) 菅原久美子、工藤 啓、猪股みち子、青木匡子、吉岡悦子、佐々木裕子、工藤 啓. 『保健事業の見直しと数値目標設定から—「健康みやぎ21」(案)設定を試みて—』第50東北公衆衛生学会 2001年7月30日 盛岡
- 4) 工藤 啓、佐々木裕子、右田周平、荒井由美子 『健康日本21地方計画市町村における策定手法について』第60回日本公衆衛生学会 2001年10月31日～11月2日 香川
- 5) 佐々木裕子、工藤 啓、吉岡 悦子 『市町村における健康日本21地方計画策定の課題について』第60回日本公衆衛生学会 2001年10月31日～11月2日 香川
- 6) 佐々木裕子、工藤 啓、加藤清司、原 礼子 『健康日本21市町村地方計画策定の実践について』国土交通省補助 東北における県立大学等の相互交流連携事業発表会 2001年11月27日 青森(青森県立保健大学健康科学部主催)
- 7) 右田周平、工藤 啓、佐々木裕子 『市町村における健康日本21地方計画策定の現状と保健担当職員の意識』第28回山形県公衆衛生学会 2002年2月14日 山形

平成13年度厚生科学研究費国庫補助金
健康科学総合研究事業研究報告書

「市町村の指標化された中長期保健サービス政策立案に関する研究」

(平成14年3月)

発行責任者 主任研究者 工藤 啓

発行 981-3298 宮城県大和町学苑1番

宮城大学大学院看護学研究科健康政策学

電話022-377-8255

FAX022-377-8290

e-mail kkudo@myu.ac.jp

URL <http://www.myu.ac.jp/~kkudo/html/Work/pubcenter.html>